

平成29年度 施策評価シート

基本目標	IV	安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	430	高齢者が生きがいをもって暮らせるしくみをつくる
施策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する
施策の目標	高齢期を迎えた区民が、地域活動や趣味、特技を活かしたボランティア活動等を通じて社会参加し、生きがいをもち、充実感のあるセカンドライフを過ごしています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「生きがいがある」65歳以上の区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	72.0%				73.0%					75.0%
実績	71.1%									
指標名	シルバー人材センター就業延べ人員及び実就労者数									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	延べ人員：182,883人 実就労者：1,400人	延べ人員：183,423人	延べ人員：183,963人	延べ人員：184,503人	延べ人員：185,000人 実就労者：1,400人	延べ人員：185,540人	延べ人員：186,080人	延べ人員：186,620人	延べ人員：187,160人	延べ人員：188,000人 実就労者：1,450人
実績	延べ人員：182,883人 実就労者：1,370人									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
高齢者の就労支援については、墨田区シルバー人材センターが担っているが、多様になる就業希望者のニーズに応えきれなくなっている可能性がある。これに対し、同センターは、「エンジョイ家援隊」の新設や労働者派遣事業への参入等の対応策を実施しており、区としてもこれを支援することが必要である。 また、増加する高齢者が社会の担い手としても活動できる様々な場や団体を広げていく必要がある。	H28	425,761
	H29	
	H30	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	各事業ともに継続の必要性があると判断する。民間企業との合同交流会の周知や情報の提供など、各事業の拡充・自主的な運営を支援し、より多くの高齢者を社会の担い手とする。

4 今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
○	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
元気高齢者施設運営、シルバー人材センター・老人クラブ支援、生きがい事業など、既に地域に認知され、活用されている事業が多い。高齢者が社会の担い手としてより活発に活動できるよう、現行の事業を継続しながら、実施事業の内容や視点などを見直し効率的な運営を図る必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
元気高齢者施設の事業内容の見直し、シルバー人材センターの就労拡充の対応策や老人クラブ支援の会員増強への側面支援、生きがい事業の事業内容の見直し検討を実施する。	

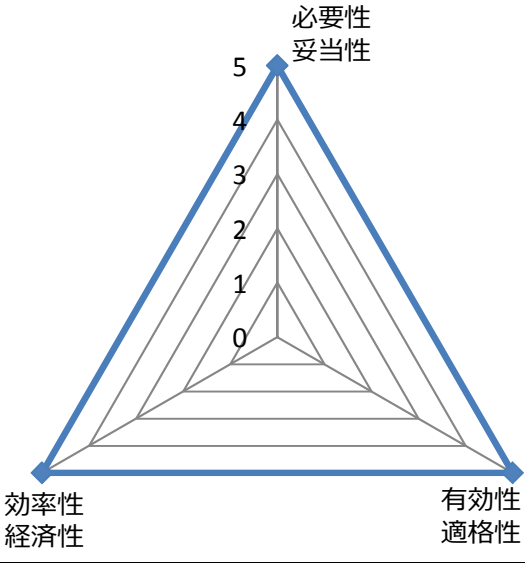
5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	介護ボランティア・ポイント 制度	1,256	ボランティア活動を行う元 気な高齢者を増やすこと で、高齢者自身の介護予防 の推進と地域活動への参加 促進を図る	200	↘	現状維持
				195		平成28年度
2	セカンドステージ支援事業	2,914	会社等を定年退職した元気 高齢者（おおむね55歳以 上）に対して、セミナーや 講座を通してセカンドス テージにおける暮らし方や ライフワークの見つけ方に 関するヒントを得る機会を 提供する。また、シニア人 材バンクで高齢者が活動で きる場を提供する。これに より、高齢者が地域におい て支える側として生きがい を持って活動していくこと が期待される。	150	↘	改善・見直し（効果測定）
				136		平成28年度
3	元気高齢者施設「いきい きプラザ」管理運営費	74,201	高齢者自身が参画・活動で きる事業を実施し、元気高 齢者の社会参加や自己実現 を図る。また、健康体操や 筋力トレーニング講座など の介護予防事業を実施して いる。	60,000	↗	現状維持
				65,700		平成28年度
4	高齢者福祉センター運営 経費（立花ゆうゆう館）	34,497	高齢者自身が参画・活動で きる事業を実施し、元気高 齢者の社会参加や自己実現 を図る。また、健康体操や 筋力トレーニング講座など の介護予防事業を実施して いる。	56,400	↘	現状維持
				53,297		平成28年度
5	高齢者福祉センター運営 経費（梅若ゆうゆう館）	37,323	高齢者自身が参画・活動で きる事業を実施し、元気高 齢者の社会参加や自己実現 を図る。また、健康体操や 筋力トレーニング講座など の介護予防事業を実施して いる。	45,000	↗	現状維持
				45,836		平成28年度
6	老人クラブ運営助成事業	36,593	区内老人クラブに対して助 成を行うことで、クラブの 活動を充実させ、会員の生 きがいづくりを支援する。	53,800	↘	改善・見直し
				53,791		平成28年度
	老人クラブ連合会助成事業	11,864	墨老連主催事業を充実さ せ、会員の生きがい向上や 健康増進を図ることができ る。	22,000	↘	改善・見直し
				21,639		平成28年度
7	姉妹区提携交流ゲートボー ル大会	220	参加者の健康増進といきが いの向上が図れている。ま た、両区高齢者の貴重な交 流の場となっている	140	→	改善・見直し
				140		平成28年度
8	シルバー人材センター運営 助成	101,873	補助を行うことで、同法人 の安定的な運営が可能とな り、地域高齢者の就業支援 が促進される。	182,883	↗	現状維持
				184,477		平成28年度
9	にこにこ入浴デー事業費	90,202	公衆浴場を高齢者のふれあ いの場とし、高齢者同士の つながりを強め、生きがい づくりを支援する。	290,000	↗	現状維持
				293,654		平成28年度

10	「湯処・語らい亭」事業費	1,104	公衆浴場でのイベント開催による世代間交流をはかり、高齢者の生きがいづくりを行う。	975	↗	現状維持
				977		平成28年度
11	長寿者に対する祝金の贈呈事業費	25,490	長年にわたり社会に尽くしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝うことで生きがいを創出する。	3,808	↘	改善・見直し
				3,780		平成28年度
12	長寿マッサージ事業費	4,956	マッサージを行うことにより高齢者が心身ともにリラックスしその健康に資するとともに、高齢者の引きこもり防止のきっかけとなる。	1,824	↘	改善・見直し(効果測定)
				1,799		平成28年度
13	ふれあい給食事業助成	2,601	保育園児との世代間交流を通して、高齢者の孤独感が解消され、地域社会との交流が進むとともに、生きがいを持った生活が送れる。	90	↗	改善・見直し
				92		平成28年度
14	すこやか長寿夫婦表彰経費	667	長年人生をともに過ごし、金婚を迎えた夫婦を讃え、表彰することが高齢者の励みに繋がる。	130	↘	改善・見直し(効果測定)
				130		平成28年度

平成29年度 事務事業評価シート

施策	431 元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位						
事務事業	介護ボランティア・ポイント制度	1						
事業概要	実施根拠：介護支援ボランティア・ポイント実施要項 介護保険法に規定する介護予防事業として、高齢者が介護保険施設でボランティア活動を行った場合にポイントを付与する制度を実施。高齢者自身の介護予防の推進と地域活動への参加促進を図るとともに、介護保険施設のサービス提供を支援している。	主管課・係（担当）						
		介護保険課管理・計画担当 5608-6924						
施策への関連性	ボランティア活動を行う元気な高齢者を増やすことで、高齢者自身の介護予防の推進と地域活動への参加促進を図る。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	元気な高齢者がボランティア活動を通して、地域貢献や社会参加ができ、自身の介護予防の推進になっている。また、登録者も着実に増えてきている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	65歳以上の介護サービスを受けていない高齢者が、高齢者のボランティア活動を促進し、社会参加や自身の介護予防の推進と地域貢献への参加促進を図る。							
有効性・適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	受入施設				単位	施設
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
		65	37	目標	44	49	51	53
				実績	47			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	55	57	59	61	63	65
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	介護支援ボランティア活動を行う高齢者が、身近な地域の施設で活動を行うことで、地域貢献を図る。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	登録人数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
		224	37	目標	200	200	203	206
実績				195				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		209	212	215	218	221	224	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
高齢者のボランティア活動を促進し、社会参加や高齢者自身の介護予防の推進と地域貢献への参加促進を図る。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	1,256							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 28年度予算から、ポイント上限額を増額した。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
介護保険法第115条の45に基づき、積極的に介護予防を行う必要がある。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
幅広い年齢層のボランティアが活動している。受入施設、登録人数も増加している。		5	5	5	5
3 効率性・経済性		現状維持の上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
現状において、最も効果的な実施方法であると考える。					
中間・最終年度の講評	今後も高齢者のボランティア活動を促進し、地域貢献・社会参加を通じて、高齢者自身の介護予防の推進と地域活動への参加促進につながっている。				
今後の方向性	事業を継続し、高齢者のボランティア活動を奨励する。				

平成29年度 事務事業評価シート

施 策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位					
事務事業	セカンドステージ支援事業					2		
事業概要	元気なシニア世代の方が、地域の中で培ってきた経験や特技を活かしながら生きがいをもち、社会参加できる環境づくりを目的とする。以下の事業を外部団体に委託して実施する。 セカンドステージセミナーの開催、シニア人材バンクの運営、シニア向け情報誌の発行、シニア向けメールマガジンの配信、生きがい講座の開催					主管課・係（担当）		
						高齢者福祉課支援係		
						03-5608-6168		
施策への 関 連 性	会社等を定年退職した元気高齢者（おおむね55歳以上）に対して、セミナーや講座を通してセカンドステージにおける暮らし方やライフワークの見つけ方に関するヒントを得る機会を提供する。また、シニア人材バンクで高齢者が活動できる場を提供する。これにより、高齢者が地域において支える側として生きがいをもち、活動していくことが期待される。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか」の質問に対し、「是非参加したい」または「参加してもよい」と回答した方が56.1%おり、区民のニーズは高い。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	事業委託先（現在はて一ねん・どすこい倶楽部）は、当該団体が発足して以来、継続してセカンドステージ支援事業を担っており実績がある。また、各事業の窓口として区内事業者や区民に広く周知されているため、今後も現在の委託先が事業運営していくことが望ましい。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	実績報告				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		12	37	目 標	12	12	12	
				実 績	12			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標	12	12	12	12	12
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	事業委託先（現在はて一ねん・どすこい倶楽部）に毎月の実績報告書を提出してもらい、活動内容を明らかにすることで事業の安定的な運営を図る。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	シニア人材バンク派遣件数				単 位	件
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
150		37	目 標	150	150	150		
			実 績	136				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目 標	150	150	150	150	150	
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
シニア人材バンクの派遣は、地域において支える側としての活動であり、高齢者の生きがいに満ちた暮らしに繋がる。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	2,914							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 例年、ほぼ一定である。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	増加傾向だが不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果から、区民のニーズは高いと言える。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
委託先に実績報告をさせることで、それぞれの事業の運営状況を明らかにしている。必要に応じ委託先と協議し、事業の有効性を把握している。		3	4	3	3
3 効率性・経済性		効果測定及び改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定				
判断理由					
セミナー及び講座を開催することで地域活動参加へのきっかけを提供し、同時にシニア人材バンクの派遣により活動の場を提供している事業は他には無い。					
中間・最終年度の講評	高齢化の進行により、事業に対するニーズが高まる。さらに、シニア層の価値観の多様化が予想されるため、提供コンテンツ等を状況に合わせていく必要がある。				
今後の方向性	事業の効率化に向けて、事業委託先（現在はてーねん・どすこい倶楽部）には今後一層、NPOの特徴を生かした運営を求める。				

平成29年度 事務事業評価シート

施策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位					
事務事業	元気高齢者施設「いきいきプラザ」管理運営費					3		
事業概要	平成16年12月いきいきプラザ条例に基づき開設し、開設当時から指定管理者制度が導入されており、開設当時から指定管理者はNPO法人のワーカーズコープであり、現在3期目である（平成25年4月1日から平成30年3月31日まで）今年度新たに4期目の指定管理者を募集する。					主管課・係（担当）		
						高齢者福祉課相談係 03-5608-6171		
施策への 関連性	高齢者自身が参画・活動できる事業を実施し、元気高齢者の社会参加や自己実現を図る。また、健康体操や筋力トレーニング講座などの介護予防事業を実施している。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	元気高齢者が健康で仕事やボランティア、生涯学習、余暇活動を通じて社会参加と自己実現を目指す拠点として認知されており、利用者数も着実に増加している。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	施設の性格上、利益を目的としたものではないため、民間での施設の運営は極めて難しい。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	モニタリング実施回数				単位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		3	H37	目標	3	3	3	3
				実績	3			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	3	3	3	3	3	3
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	墨田区の指定管理施設として、適切に施設が管理運営されていることを定期的に確認する必要があるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	年間延べ利用者人数				単位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
70,000		H32	目標	60,000	65,000	65,000	65,000	
			実績	65,700				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
一人でも多くの利用者があれば、それだけ高齢者にとって有意義な施設となり、元気で生きがいに満ちた高齢者の暮らしを支援できたことになるため。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	74,886							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 おおむね横ばい				

1 必要性・妥当性													
区民ニーズの有無	ある												
代替可能性の有無	ない												
区が実施すべき強い理由があるか	ある												
判断理由													
利用者数は、開設当時の平成17年度は、30,000人程度であったが現在は65,000人と大幅に増加し、高齢者にとって欠かすことのできない施設になっている。													
2 有効性・適格性		<table border="1"> <tr> <td>必要性 妥当性</td> <td>有効性 適格性</td> <td>効率的 経済性</td> <td>評価結果</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </table>				必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果	5	5	5	5
必要性 妥当性	有効性 適格性					効率的 経済性	評価結果						
5	5					5	5						
事業の目的が施策に合致しているか	合致している												
指標は目標値を満たしているか	満たしている												
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある												
判断理由													
健康体操などの各種事業は、希望者が多く抽選になるほどである。利用者のアンケートの結果、友達ができた・健康になったという声が多数あり、高齢者に生きがいを与えている。													
3 効率性・経済性		<p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">現状維持の上継続</p>											
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない												
実工程やコストに改善の余地がないか	ない												
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある												
判断理由													
限られた規模の施設ではあるが、最大限に活用し多数の利用者がリピーターになっており効率性は非常に高い。													
中間・最終年度の講評	多くの元気高齢者が、健康で仕事やボランティア、生涯学習、余暇活動を通じて社会参加と自己実現を目指せる拠点として認知しており、利用者数も着実に増加している。												
今後の方向性	高齢者の健康増進や生きがい創出を、介護予防体操などの各種事業を通じて進めていくとともに、高齢者同士の仲間づくり等を推進し閉じこもりを防止する。また、利用者の自主活動を支援することで、活動の場としての役割も積極的に果たしていく。												

平成29年度 事務事業評価シート

施策	431 元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位						
事務事業	高齢者福祉センター運営経費（立花ゆうゆう館）	4						
事業概要	平成6年11月墨田区高齢者福祉センター条例により設置。平成18年度から指定管理者制度を導入。第1期は墨田区社会福祉事業団（平成18年4月1日から平成21年3月31日まで）第2期（平成21年4月1日から平成24年3月31日まで）、第3期（平成24年4月1日から平成29年3月31日まで）、第4期（平成29年4月1日から平成34年3月31日まで）、はNPO法人てーねん・どすこい倶楽部が指定管理者である。	主管課・係（担当）						
		高齢者福祉課相談係						
		03-5608-6171						
施策への関連性	高齢者自身が参画・活動できる事業を実施し、元気高齢者の社会参加や自己実現を図る。また介護予防トレーニングやウォーキング教室などの介護予防事業を実施している。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	元気高齢者が健康で仕事やボランティア、生涯学習、余暇活動、介護予防を目的とした筋トレ・ストレッチ体操を通じて社会参加と自己実現を目指せる拠点として認知されており、利用者数も着実に増加している。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	施設の性格上、利益を目的としたものではないため、民間での施設の運営は極めて難しい。							
有効性・適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	モニタリング実施回数				単位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		3	H37	目標 実績	3 3	3	3	
		/	H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	3	3	3	3	3	3
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	墨田区の指定管理施設として、適切に施設が管理運営されていることを定期的に確認する必要があるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	年間延べ利用者人数				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		57,000	H37	目標 実績	56,400 53,297	54,000	55,000	56,000
		/	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標		57,000	57,000	57,000	57,000	57,000	57,000	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
一人でも多くの利用者があれば、それだけ高齢者にとって有意義な施設となり、元気で生きがいに満ちた高齢者の暮らしを支援できたことになるため。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	34,497							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 おおむね横ばい				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
高齢化が進んでおり、ニーズはさらに高まっている。引きこもり防止のための余暇活動や介護予防を目的とした体操など、社会参加と自己実現を目指せる拠点として認知されている。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
利用者数は、前指定管理者だった平成20年度は、38,379人であったが現在は53,297人と大幅に増加した。トレーニングやウォーキング教室などで介護予防事業を積極的に展開しており、多数の高齢者の生きがいづくりに貢献している。		5	5	5	5
3 効率性・経済性		現状維持の上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
立花ゆうゆう館の講座への参加を生きがいの一つとしている方も多数おり、高齢者同士の仲間づくりや介護予防の機会を与えている。					
中間・最終年度の講評	無料で利用できる施設の利点を生かし、多くの元気高齢者が、様々な面で社会参加と自己実現を目指せる拠点として認知しており、利用者数も安定している。				
今後の方向性	施設が担うべき社会的役割（就労支援、仲間づくり等）や、利用者のニーズに対応した事業を取り入れ、さらに利用者の満足度の向上に努めていく。				

平成29年度 事務事業評価シート

施策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位					
事務事業	高齢者福祉センター運営経費（梅若ゆうゆう館）					5		
事業概要	平成6年墨田区高齢者福祉センター条例が制定、平成12年4月に開設され平成18年度から指定管理者制度を導入した。平成18年度から、指定管理者は墨田区社会福祉事業団であり、現在3期目である（平成28年4月1日から平成33年3月31日まで）					主管課・係（担当）		
						高齢者福祉課相談係 03-5608-6171		
施策への 関連性	高齢者自身が参画・活動できる事業を実施し、元気高齢者の社会参加や自己実現を図る。また介護予防トレーニングやウォーキング教室などの介護予防事業を実施している。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	元気高齢者が健康で仕事やボランティア、生涯学習、余暇活動、介護予防を目的とした筋トレ・ストレッチ体操を通じて社会参加と自己実現を目指せる拠点として認知されており、利用者数も着実に増加している。今年高齢化がますます進む中で、ニーズはさらに高まると予想される。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
施設の性格上、利益を目的としたものではないため、民間での施設の運営は極めて難しい。								
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	モニタリング実施回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		3	H37	目標 実績	3 3	3	3	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	3	3	3	3	3	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	墨田区の指定管理施設として、適切に施設が管理運営されていることを定期的に確認する必要があるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	年間延べ利用者人数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
46,000		H37	目標 実績	45,000 45,836	46,000	46,000		
H32		H33	H34	H35	H36	H37		
目標		46,000	46,000	46,000	46,000	46,000		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
一人でも多くの利用者があれば、それだけ高齢者にとって有意義な施設となり、元気で生きがいに満ちた高齢者の暮らしを支援できたことになるため。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	37,323							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 おおむね横ばいである。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
高齢化が進んでおり、ニーズはさらに高まっている。引きこもり防止のための余暇活動や介護予防を目的とした体操など、社会参加と自己実現を目指せる拠点として認知されている。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
高齢者が多数集まって介護予防体操などに参加し、心身共にいきがいを与える事業を行っている。また、利用者数も45,836人と目標値を超え、多数の高齢者が利用している。		5	5	5	5
3 効率性・経済性		現状維持の上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
利用者の数は増加傾向にある。ここでの講座を生きがいの一つとしている方も多数いる。また徒歩で行けるような近隣の場所に同様の施設はない。					
中間・最終年度の講評	デイサービス事業所に併設している利点を生かし、多くの元気高齢者が、自己の身体状況に合わせて一般サービスと介護サービスの使い分けができるなど、末永く継続利用が目指せる拠点として認知しており、利用者数も安定している。				
今後の方向性	施設が担うべき高齢者の健康増進事業や講座の実施を行っていくとともに、利用者のニーズに対応した事業を新たに取り入れ、より多くの方が満足して利用できるよう努めていく。				

平成29年度 事務事業評価シート

施策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位					
事務事業	老人クラブ運営助成事業					6		
事業概要	昭和40年 墨田区老人クラブ助成要綱を制定					主管課・係(担当)		
	昭和60年 特別事業助成金を追加					高齢者福祉課支援係		
	平成12年 助成金額を減額					03-5608-6168		
施策への 関連性	区内老人クラブ(H29.4.1現在、団体数149、会員数12,272人)に対して助成を行うことで、クラブの活動を充実させ、会員の生きがいを高める。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
	老人クラブは、営利を目的とした団体ではなく、会員から徴収する会費と区からの助成金を主な財源としているため、自主的に財源を獲得することは困難である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	補助金交付件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		158	37	目標 実績	154 152	150	151	152
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	153	154	155	156	157	158
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	交付件数の増加は、区内老人クラブの増加を意味する。クラブが増加することで、高齢者が活動する場が増える。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	老人クラブ活動回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
55,600		37	目標 実績	53,800 53,791	53,800	53,900	54,000	
H32		H33	H34	H35	H36	H37		
目標		54,100	55,200	55,300	55,400	55,500	55,600	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
活動回数の増加は、老人クラブが活性化していることを表す。老人クラブの活性化は、加入している高齢者の生きがいにつながるものと考えられる。								
財政面 (決算額) (単位:千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	36,593							
	H35	H36	H37	[予算の傾向] 老人クラブ数、会員数の増減により変動する。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
老人クラブは、自主的に財源を獲得することが困難であるため、補助が不可欠である。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしていない				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
高齢者の生きがいづくりに寄与している。		5	4	4	4
3 効率性・経済性		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
会員が12,272人おり、廃止・見直しの影響はかなり大きい。					
中間・最終年度の講評	近年、老人クラブ数・会員数ともに減少傾向にある。会員増強のための老人クラブのあり方の見直しや入会対象者（60歳以上）のニーズ把握が必要である。				
今後の方向性	会員数が増加したクラブに対してインセンティブを与える仕組みの構築や、入会数が十分でない団塊世代に対する入会勧奨、団塊世代のニーズの調査研究等の実施を検討していく。				

平成29年度 補助金評価シート

補助金 名称	老人クラブ運営助成						主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区老人クラブ助成要綱						高齢者福祉課支援係	
事業概要	昭和40年 墨田区老人クラブ助成要綱を制定 昭和60年 特別事業助成金を追加 平成12年 助成金額を減額						03-5608-6168	
							事業の終期	
							平成37年度	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ 代替可能性の状況（区が実施する必要性等） 老人クラブは、営利を目的とした団体ではなく、会員から徴収する会費と区からの助成金を主な財源としているため、自主的に財源を獲得することは困難である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	補助金交付件数				単位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		158	37	目標	154	150	151	152
				実績	152			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	153	154	155	156	157	158
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	交付件数の増加は、区内老人クラブの増加を意味する。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	老人クラブ活動回数				単位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		55600	37	目標	53800	53800	53900	54000
				実績	53791			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	54100	55200	55300	55400	55500	55600
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
活動回数の増加は、老人クラブが活性化していることを表す。 老人クラブの活性化は、加入している高齢者の生きがいにつながるものと考えられる。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	36593							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 老人クラブ数、会員数の増減により変動する。				
施策への 関連性	区内老人クラブ（H29.4.1現在、団体数149、会員数12,272人）に対して助成を行うことで、クラブの活動を充実させ、会員の生きがいを高める。							

1 必要性・妥当性			5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している	
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している	
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する	
区の施策目標の実現に寄与しているか	している			
判断理由				
老人クラブは、自主的に財源を獲得することは困難であるため、補助が不可欠である。				
2 有効性・適格性			4	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている	
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している	
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	ない	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある	
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	不明確	
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	不明確	
判断理由				
高齢者の生きがいがいづくりに寄与している。				
3 効率性・経済性			4	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある	
手続が過度に煩雑でないか	煩雑である	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし	
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である			
判断理由				
会員が12,272人おり、廃止・見直しの影響はかなり大きい。				
【評価結果】				
改善・見直し				
中間・最終年度の講評	近年の老人クラブ数及び会員数の減少に伴い、補助金額も減少傾向にある。			
今後の方向性	今後も、老人クラブ数及び会員数に応じて、必要な補助を行う。 また、会員数が増えたクラブに対するインセンティブの付与等についても、必要に応じて検討する。			

平成29年度 事務事業評価シート

施 策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位					
事務事業	老人クラブ連合会助成事業					6		
事業概要	昭和48年 墨田区老人クラブ連合会助成要綱制定					主管課・係 (担当)		
						高齢者福祉課支援係 03-5608-6168		
施策への 関 連 性	事務局運営費や事業運営費を助成することにより、墨老連主催事業を充実させ、会員の生きがい向上や健康増進を図ることができる。また、当該連合会は、各单位老人クラブの運営に関して、各種助言を行う機能を有している。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況 (区が実施する必要性等) 当該団体は、各クラブからの分担金と区補助金を主な財源としており、安定的な団体運営のためには、区の補助が不可欠である。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	墨老連関係事業数				単 位	事 業
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		95	37	目 標	95	95	95	95
				実 績	93			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	95	95	95	95	95	95
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由 事業数が多ければ、会員の参加機会が増加する。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	墨老連関係事業参加者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
22,000		37	目 標	22,000	22,000	22,000	22,000	
			実 績	21,639				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標		22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由 高齢者の閉じこもり防止の観点から、参加者数は多ければ多いほど望ましい。								
財 政 面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	11,864							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 単位老人クラブの団体数、事務局人件費の金額により変動する。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
当該団体は区内149の老人クラブの連合体であり、会員数は12,272人を数えるため、区民ニーズは高いと考えられる。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしていない				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
事務局運営費や事業運営費を助成することにより、墨老連主催事業を充実させ、会員の生きがい向上や健康増進を図ることができる。		5	4	4	4
3 効率性・経済性		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
1万人を超える会員がおり、事業の見直しによる影響は大きい。					
中間・最終年度の講評	昨今、会員数・クラブ数ともに減少傾向にあり、会員の増強が求められているが、墨田区民の老人クラブ加入率は、依然として都内トップクラスである。老人クラブは、地域活動の貴重な担い手であるため、今後も連合会に対する継続的な支援が必要である。				
今後の方向性	会員増強に向けて、各クラブの意見を吸い上げながら、連合会としてリーダーシップを発揮し、全体的な方針を策定していくことが必要であるため、区としても支援を継続する。				

平成29年度 補助金評価シート

補助金 名称	老人クラブ連合会助成						主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区老人クラブ連合会助成要綱						高齢者福祉課支援係	
事業概要	昭和48年 墨田区老人クラブ連合会助成要綱制定						03-5608-6168	
							事業の終期	
							平成37年度	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	当該団体は、各クラブからの分担金と区補助金を主な財源としており、安定的な団体運営のためには、区の補助が不可欠である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	墨老連関係事業数				単 位	事業
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		95	37	目 標	95	95	95	95
				実績	93			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	95	95	95	95	95	95
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	事業数が多ければ、会員の参加機会が増加する。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	墨老連関係事業参加者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		22,000	37	目 標	22,000	22,000	22,000	22,000
				実績	21,639			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
高齢者の閉じこもり防止の観点から、参加者数は多ければ多いほど望ましい。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
		11,864						
		H35	H36	H37	〔予算の傾向〕			
施策への 関 連 性	事務局運営費や事業運営費を助成することにより、墨老連主催事業を充実させ、会員の生きがい向上や健康増進を図ることができる。							

1 必要性・妥当性	5
------------------	----------

区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する
区の施策目標の実現に寄与しているか	している		

判断理由

当該団体は区内149の老人クラブの連合体であり、会員数は12,272人を数えるため、区民ニーズは高いと考えられる。

2 有効性・適格性	5
------------------	----------

経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	該当なし	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	明確
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	明確

判断理由

事務局運営費や事業運営費を助成することにより、墨老連主催事業を充実させ、会員の生きがい向上や健康増進を図ることができる。

3 効率性・経済性	5
------------------	----------

類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である		

判断理由

1万人を超える会員がおり、事業の見直しによる影響は大きい。

<p>【評価結果】</p> <h1 style="font-size: 2em;">現状維持・拡充</h1>	
--	--

中間・最終年度の講評	補助を行うことにより、円滑な団体運営につながっているものと考えられる。
今後の方向性	今後も老人クラブ連合会会員の生きがい増進のために、必要な補助を行っていく。

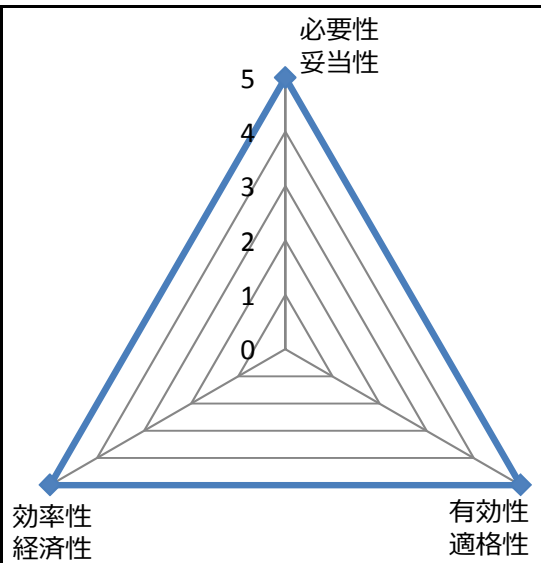
平成29年度 事務事業評価シート

施策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位					
事務事業	姉妹区提携交流ゲートボール大会					7		
事業概要	昭和52年 台東区と姉妹区提携 昭和57年 第一回姉妹区ゲートボール大会開催 平成14年 出場チームを各区20チームから、16チームに減じた。 平成18年 出場チームを各区16チームから、12チームに減じた。 平成26年 出場チームを各区12チームから、10チームに減じた。					主管課・係(担当)		
						高齢者福祉課支援係		
						03-5608-6168		
施策への 関連性	本事業を実施することにより、参加者の健康増進といきがいの向上が図れている。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
	数少ない台東区との提携交流事業である。 台東区との各種調整等、区が行う必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	大会の実施回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1	37	目標 実績	1 1	1	1	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	1	1	1	1	1	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	年に一回、安定的に事業を実施する。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	出場者の数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
140		37	目標 実績	140 140	140	140		
H32		H33	H34	H35	H36	H37		
目標		140	140	140	140	140		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
事業の規模を維持し、参加者の生きがいづくりを支援する。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	220							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 参加者数に増減がない限り、予算額に大きな変動はない。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	少ない又は減少傾向				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
数少ない台東区との提携交流事業である。台東区との各種調整等、区が行う必要がある。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
ゲートボール競技者の数少ない練習成果発揮の場となっており、参加者の健康増進及び生きがいの向上につながっていると考える。		2	5	4	4
3 効率性・経済性		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
運営については、両区老人クラブ会員・ゲートボール協会会員が無償で行っており、経費は会場使用料、設営費等必要最小限に抑えている。					
中間・最終年度の講評	台東区との提携交流事業が数少ない中、参加者からのニーズも高いため、今後も事業を継続させることが必要である。				
今後の方向性	本事業を今後も継続させるために、墨田台東両区、両区老連、両区ゲートボール協会等で足並みを揃え、参加者の増加策等を検討する。				

平成29年度 事務事業評価シート

施 策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位					
事務事業	シルバー人材センター運営助成					8		
事業概要	昭和56年 補助事業開始 平成2年 社団法人墨田区シルバー人材センターと名称変更 平成23年 4月 公益社団法人化 平成29年 4月 労働者派遣事業開始					主管課・係 (担当)		
						高齢者福祉課支援係 03-5608-6168		
施策への 関 連 性	補助 (人件費の一部、管理費の一部、向島・緑作業所運営経費) を行うことで、墨田区シルバー人材センターの安定的な運営が可能となり、地域高齢者の就業支援が促進される。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況 (区が実施する必要性等) 同法人の財源は、区からの補助金を主としており、安定的な法人運営のためには、区の補助金が不可欠である。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	会 員 数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		1,880	37	目 標 1,798	1,800	1,810	1,820	
				実 績 1,798				
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	1,830	1,840	1,850	1,860	1,870	1,880
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	就労拡大のためには、まずは入会者を増やす必要がある。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	就 業 延 べ 日 人 員				単 位	人
最終目標値		目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31		
188,000		37	目 標 182,883	183,423	183,963	184,503		
			実 績 184,477					
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標		185,000	185,540	186,080	186,620	187,160	188,000	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
会員の就業拡大を表す数値であるため。								
財 政 面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	101,873							
	H35	H36	H37	[予算の傾向] 事務局職員の給与支給額により変動する。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
高齢者の就労支援は、国を挙げて取り組んでいる課題である。センターの安定的な運営には区の補助が必要不可欠である。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
就労支援の促進は、地域高齢者の生きがい向上につながる。		5	5	5	5
3 効率性・経済性		現状維持の上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
法人に自主・自立的な運営を促すために、補助金額は必要最小限に抑える必要がある。					
中間・最終年度の講評	同法人は、エンジョイ家援隊の新設（平成28年度～）、労働者派遣事業への参入（平成29年度～）等地域高齢者の就業拡大に向けて、様々な打開策を行っており、多くの会員が活動しているため、今後もこれらの事業が発展するよう支援していく。				
今後の方向性	平成29年度から開始した労働者派遣事業が軌道に乗るように、経済的な支援に限らず、区報やケーブルテレビを活用したPRや、セブンイレブんと連携の推進等を行う。				

平成29年度 補助金評価シート

補助金 名称	シルバー人材センター運営助成						主管課・係(担当)		
根拠法令	公益社団法人墨田区シルバー人材センター補助金交付要綱						高齢者福祉課支援係		
事業概要	昭和56年 補助事業開始 平成2年 社団法人墨田区シルバー人材センターと名称変更 平成23年 4月 公益社団法人化 平成29年 4月 労働者派遣事業開始						03-5608-6168		
							事業の終期		
							平成37年度		
必要性・ 妥当性	区民のニーズ								
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)								
	同法人の財源は、区からの補助金を主としており、安定的な法人運営のためには、区の補助金が不可欠である。								
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	会員数				単位	人	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
		1,880	37	目標 実績	1,798 1,798	1,800	1,810	1,820	
		目標	H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		実績	1,830	1,840	1,850	1,860	1,870	1,880	
		指標の選定理由及び目標値の理由							
		就労拡大のためには、まずは入会者を増やす必要がある。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	就業延べ日人員				単位	人	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
		188,000	37	目標 実績	182,883 184,477	183,423	183,963	184,503	
		目標	H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		実績	185,000	185,540	186,080	186,620	187,160	188,000	
		指標の選定理由及び目標値の理由							
		会員の就業拡大を表す数値であるため。							
	財政面 〔決算額〕 (単位:千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
101,873									
H35		H36	H37	〔予算の傾向〕 事務局職員の給与支給額により変動する。					
施策への 関連性	補助(人件費の一部、管理費の一部、向島・緑作業所運営経費)を行うことで、墨田区シルバー人材センターの安定的な運営が可能となり、地域高齢者の就業支援が促進される。								

1 必要性・妥当性	5
------------------	----------

区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する
区の施策目標の実現に寄与しているか	している		

判断理由

高齢者の就労支援は、国を挙げて取り組んでいる課題である。センターの安定的な運営には区の補助が必要不可欠である。

2 有効性・適格性	5
------------------	----------

経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	該当なし	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	明確
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定 of 具体的な目標・指標が明確か	明確

判断理由

就労支援の促進は、地域高齢者の生きがい向上につながる。

3 効率性・経済性	5
------------------	----------

類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である		

判断理由

法人に自主・自立的な運営を促すために、補助金額は必要最小限に抑える必要がある。

<p>【評価結果】</p> <h1 style="font-size: 2em;">現状維持・拡充</h1>	
--	--

中間・最終年度の講評	補助を行うことにより、円滑な団体運営につながっているものと考えられる。
------------	-------------------------------------

今後の方向性	法人の自主・自立的な運営を促しつつ、東京都の補助金等を活用しながら、今後も必要な範囲で補助を行っていく。
--------	--

平成29年度 事務事業評価シート

施策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位					
事務事業	にこにこ入浴デー事業費					9		
事業概要	特別養護老人ホーム入所者を除く高齢者が決められた日に無料または半額で入浴できる事業。 昭和50年に入浴券を交付。昭和54年に所得制限設定。平成6年に菖蒲湯、ゆず湯、敬老の日をふれあい入浴とし、平成18年に家庭の日、ふれあい入浴を半額自己負担とする。平成20年に所得制限を撤廃した。					主管課・係（担当）		
						高齢者福祉課支援係		
		5608-6168						
施策への関連性	公衆浴場を高齢者のふれあいの場とし、高齢者同士のつながりを強め、生きがいを支援する。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	平成28年度墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、にこにこ入浴デー事業について、「利用したことがない」が一番多くおよそ60%である。一方で、利用したことがある人は約30%であり、一定の需要があるといえる。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	高齢者の入浴料金分を区が負担する形であり、民間事業者や団体等が実施することは難しいと考えられる。区の独自事業であり、特別養護老人ホーム入所者を除く全高齢者を対象にし、区内全公衆浴場の協力のもと実施していることから、都や国の事業として実施することも難しい。							
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	実施回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		2,100	37	目標 実績	1,400 1,407	1,900	2,100	2,100
		H28	H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標 実績	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	実施回数が多いほど、高齢者のふれあいの機会創出につながると考え活動指標に選定した。また、目標値については、平成29年度の最大実施回数が1,940回、平成30年度以降は2,140回であり、それぞれ浴場の定休日などで実施しない場合を考慮し設定した。なお、この数値は1年を52週とし算出している。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	延べ人数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		432,600	37	目標 実績	290,000 293,654	397,100	443,100	443,100
H28		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標 実績		441,000	441,000	438,900	434,700	434,700	432,600	
指標の選定理由及び目標値の理由								
人数から事業の効果を推測することができると考え成果指標とした。平成28年度の1回あたりの利用者数の平均は約208人であり、高齢者人口の将来推計を参考としながら今後の平均利用者数を算出した。この算出した数値を活動指標の目標回数に乗じて成果指標の目標値を設定した。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	90,202							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 浴場数が減少傾向にあり、それに伴い予算も減少傾向にある。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
区民ニーズは約30%と一定の需要がある。代替可能性については上述のとおりないを考える。高齢者の引きこもりを防止し生きがいを支援するという観点から、区が実施する理由があると考えられる。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
高齢者のふれあいの場創出という観点から施策に合致していると考え。平成28年度で延約30万人が利用していることから、コストに対する成果が得られていると考え。		5	5	5	5
3 効率性・経済性		現状維持の上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
類似事業はなく、実施工程は、平成29年7月1日から無料で入浴できる曜日を1日増やすことで改善を図った。多くの利用者が利用していることから波及効果は大きい。					
中間・最終年度の講評	高齢者のふれあいの場創出を目的としているため、事業の周知を進め、より多くの方が利用できるようにする必要がある。				
今後の方向性	より多くの高齢者が利用し、公衆浴場をふれあいの場として活用していくよう事業を継続する。				

平成29年度 事務事業評価シート

施 策	431 元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位						
事務事業	「湯処・語らい亭」事業費	10						
事業概要	区内の開店前の銭湯でイベントを実施し、高齢者の世代間交流を図る。	主管課・係 (担当)						
		高齢者福祉課支援係 5608-6168						
施策への 関 連 性	公衆浴場でのイベント開催による世代間交流をはかり、高齢者の生きがいづくりを行う。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	平成28年度の日常生活圏域ニーズ調査において、若い人に自分から話しかけることがない人の割合は約25%であり、高齢者の4人に1人は若い人に話しかけることがないことがわかる。このことから、公衆浴場を世代間交流の機会として設定することには、一定の必要性があると考えられる。							
	代替可能性の状況 (区が実施する必要性等)							
	高齢者の世代間交流の場を設ける必要性から、区が各公衆浴場に依頼し委託している。各浴場が自主的にイベントを開催することが理想であるが、経費等もかかるため、事業の必要性から区が補助をすることで実施する。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	実施回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		101	37	目 標 92	93	94	95	
				実 績 92				
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	96	97	98	99	100	101
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	より多く実施することで、世代間交流の機会を設ける。最終目標値を28年度実績の1割増しである101回に設定し、29年度から段階的に増やすことを目標とする。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	延べ参加人数				単 位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
1,050		37	目 標 975	967	977	988		
			実 績 977					
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標		998	1,008	1,019	1,029	1,040	1,050	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
より多くの方が参加することで、世代間交流を図ることができる。目標値については、28年度の1回あたりの参加人数の平均が10.6人であり、実施回数の目標値にあわせ算出した。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	1,104							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 一定である。				

1 必要性・妥当性								
区民ニーズの有無	ある							
代替可能性の有無	増加傾向だが不十分							
区が実施すべき強い理由があるか	必須で裁量余地なし							
判断理由								
現状では類似の事業はなく、世代間交流の場の設定には一定の需要があることを考慮すると、区が実施すべき理由があると考えられる。								
2 有効性・適格性								
事業の目的が施策に合致しているか	合致している							
指標は目標値を満たしているか	満たしている							
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある							
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	有効性 適格性			
世代間交流の場の設定という点で事業の目的が施策に合致していると考えられる。		4	5	5	評価結果 5			
3 効率性・経済性		<p style="text-align: center; font-size: 24px;">現状維持の上継続</p>						
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない							
実工程やコストに改善の余地がないか	ない							
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある							
判断理由								
類似事業はないが、実工程やコストについて改善を検討していく必要がある。延1,000人近く参加しており一定の波及効果があると考えられる。								
中間・最終年度の講評	地域活動の拠点の一つとして定着してきていることから、さらに各種事業の周知をしていく必要がある。							
今後の方向性	世代間交流や国際交流を深める役割も取り入れながら、事業を継続する。							

平成29年度 事務事業評価シート

施策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位					
事務事業	長寿者に対する祝金の贈呈事業費					11		
事業概要	墨田区長寿者祝金贈呈事業実施要綱（昭和63年度） 区内に居住している最高齢者並びに百歳、米寿及び喜寿の高齢者の長寿を祝福して、長寿者祝金を贈呈する。					主管課・係（担当）		
						高齢者福祉課支援係 5608-6168		
施策への 関連性	長年にわたり社会に尽くしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝うことで生きがいを創出する。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ 平成28年度に墨田区内在住の65歳以上の高齢者を対象に実施した「日常生活圏域ニーズ調査」では、「現状のまま実施した方がよい」が全体の64%程度となっており、高齢者の要望は高い。しかし、贈呈対象に近い高齢者のみの調査結果となるため、64歳以下のニーズを把握する必要がある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等） 年々高齢者の平均寿命が延びており、対象者数が増加している。贈呈対象年齢を上げる、または品物の贈呈にする等、代替の可能性はあり、事業のあり方を検討する必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	チラシ発行部数				単 位	枚
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		26,400	37	目 標	26,400	26,400	26,400	26,400
				実 績	26,400			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	26,400	26,400	26,400	26,400	26,400	26,400
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	贈呈の趣旨や、方法をあらかじめ周知することにより、不審という理由からの辞退者をなくしたり、効率よく祝い金の配布を行うため。なお、周知については高齢者みまもり相談室が発行しているみまもり便りによる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	贈呈者数（最高齢・百歳・米寿・喜寿）				単 位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
4,687		37	目 標	3,808	4,040	4,054	4,017	
			実 績	3,780				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標		3,872	3,333	4,070	4,752	4,773	4,687	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
贈呈することを目的としているため、贈呈者数とした。（実績は死亡、転出等により変動してしまう。）								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	25,490							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 高齢者人口が年々増加しているため、予算額も増加傾向にある。				

1 必要性・妥当性								
区民ニーズの有無	ある							
代替可能性の有無	不十分							
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり							
判断理由								
平成28年度に実施した「日常生活圏域ニーズ調査」では、「現状のまま実施の方がよい」が全体の64%程度となっており、高齢者の要望が高い。しかし、高齢者人口の増加傾向も鑑み、贈呈年齢層の引き上げや、実施方法の検討の余地はある。								
2 有効性・適格性								
事業の目的が施策に合致しているか	合致している							
指標は目標値を満たしているか	満たしていない							
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある							
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	有効性 適格性			
目標値は、各贈呈基準日のおおむねの人数としているため、死亡・転出等があると実績値が減少してしまう。しかし辞退者を除き、ほとんどの対象者に贈呈ができているため、成果は十分あると考える。		3	4	4	4			
3 効率性・経済性		<p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p>						
目的・対象が類似する事務事業はないか	類似事業はあるが統合等は望ましくない							
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある							
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある							
判断理由								
現在日本の平均寿命の男女平均は約83歳であり、「長寿者に贈呈をする」という趣旨から、事業対象者の選定を見直す検討の余地はある。また、喜寿・米寿は民生委員が自宅訪問し贈呈を行っているが、高齢者人口の増加に伴い配布の負担が大きくなる。また、各地区の高齢者数により負担も異なるため、改善の余地はある。								
中間・最終年度の講評	長寿者祝金は、多くの贈呈者に喜ばれ、長寿を目指す張り合いになっているという意見が多い。支給対象者は増加の一途をたどり、事業の手段が適切か検討をする必要がある。							
今後の方向性	今後とも支給対象者は増加することが予想される。幅広い年齢層の区民のニーズを把握し、適切な事業体系、あり方を検討していく。							

平成29年度 事務事業評価シート

施 策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位					
事務事業	長寿マッサージ事業費					12		
事業概要	各地域の長寿室の外、高齢者福祉センター等の計13施設に利用登録をしている高齢者を対象に実施している。 施術については、墨田区視覚障害者福祉協会の協力のもと有償ボランティアとして実施し、障害者の社会貢献の一端を担う事業となっている。					主管課・係（担当）		
						高齢者福祉課支援係 5608-6168		
施策への 関 連 性	マッサージを行うことにより高齢者が心身ともにリラックスしその健康に資するとともに、高齢者の引きこもり防止のきっかけとなる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	障害者の社会貢献の一端を担っている事業でもあるため、区が継続して行う必要がある。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	実施回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		456	37	目 標 実績	456 456	456	456	456
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目 標 実績	456	456	456	456	456	456
		指標の選定理由及び目標値の理由						
	実施回数が多いほど、高齢者の健康増進の機会創出につながる。目標値は平成29年度時点の最大施術回数である。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	利用者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1,824	37	目 標 実績	1,824 1,799	1,824	1,824	1,824
H32		H33	H34	H35	H36	H37		
目 標 実績		1,824	1,824	1,824	1,824	1,824	1,824	
指標の選定理由及び目標値の理由								
利用者の人数から事業の効果を判断する。本事業は13施設19床で、一床あたり4名が施術を受けことができる。目標値は平成29年度時点の最大施術可能人数である。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	4,956							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 減少傾向				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	増加傾向だが不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
障害者の社会貢献の一端を担っている事業でもあるため、区が継続して行う必要がある。高齢者の健康増進に資するまたは引きこもり防止の手段としても有効である。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
障害者の社会貢献の一端を担っている事業としても有効である。		3	4	2	3
3 効率性・経済性		効果測定及び改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	未検討				
実施工程やコストに改善の余地がないか	未検討				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
毎年一定数の利用があり、高齢者の引きこもり防止に寄与しているため、地域社会の活性化に繋がる。					
中間・最終年度の講評	マッサージ施術により、高齢者の健康増進に寄与している。同時に、墨田区視覚障害者福祉協会の会員である障害者の社会貢献の一端を担う事業ともなっている。				
今後の方向性	施設の建替え統合などで、会場となる長寿室がなくなることも想定されるため、多角的な視点で事業のあり方を検討していく。				

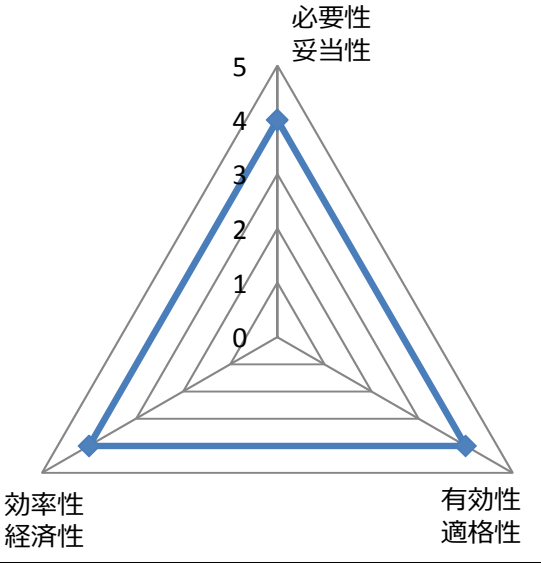
平成29年度 補助金評価シート

補助金名称	長寿マッサージ事業に係る団体損害保険	主管課・係（担当）						
根拠法令	27墨福高第1655号	高齢者福祉課支援係						
事業概要	長寿マッサージ事業の施術において、施術師が区民に損害を与えた場合に、速やかに保障することを目的として、各施術師が団体損害保険に加入している。施術の保障により、区民が安全に施術を受けることができる。	5608-6168						
		事業の終期						
		平成37年						
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	保険の加入は施術をするうえで不可欠であると考え、現状代替可能性はないと考える。							
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	施術登録者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		19	37	目標 実績	17 17	19	19 19	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標 実績	19	19	19	19	19	
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		現在施術者名簿に登録している施術者数を目標値とした。						
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	加入者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		15	37	目標 実績	15 15	15	15 15	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標 実績	15	15	15	15	15	
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		現在施術者として施術をしている者のうち、自身で加入しているため不要な者を差し引いた数を目標値として設定した。						
	財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
46								
H35		H36	H37	〔予算の傾向〕 一定である。				
施策への関連性	保険に加入することによって、区民が安心して施術を受けることができる。							

1 必要性・妥当性			5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している	
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している	
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する	
区の施策目標の実現に寄与しているか	している			
判断理由				
区民が安心して施術を受けるために必要である。				
2 有効性・適格性			4	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている	
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している	
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	該当なし	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある	
補助目的が既に達成されていないか	されている	目標及び見込まれる効果が明確か	明確	
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	明確	
判断理由				
実費弁償であり、適切な金額である。				
3 効率性・経済性			5	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある	
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし	
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である			
判断理由				
煩雑な手続きではなく、費用も妥当なものである。				
【評価結果】				
改善・見直し				
中間・最終年度の講評	万一の事故に備えつつ事業を継続するうえで不可欠である。			
今後の方向性	現状維持により継続する。			

平成29年度 事務事業評価シート

施策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位					
事務事業	ふれあい給食事業助成					13		
事業概要	平成2年度から墨田区ふれあい給食事業助成交付金要綱に基づき実施。 平成14年度に年齢要件を、平成18年度には実施回数を緩和し、事業の充実を図ってきた。現在私立保育園6園に対して経費の一部を助成している。 【現在の助成内訳】ふれあい給食実施：食材料費200円/食、事務費3,500円/回、生きがい教室：運営費8,000円/回					主管課・係（担当）		
						高齢者福祉課支援係		
						03-5608-6168		
施策への 関連性	保育園児との世代間交流を通して、高齢者の孤独感が解消され、地域社会との交流が進むとともに、生きがいを持った生活が送れる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	地域に根差した私立保育園が実施する事業を区が推進させることで、地域社会との交流が進むとともに、生きがいを持った生活が送れる。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	参加延べ人数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		4,007	37	目標	3,964	3,829	3,886	3,944
				実績	3,643			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	3,999	4,043	4,064	4,060	4,043	4,007
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	参加延べ人数の把握により、高齢者の地域社会との交流が図られた事が確認できる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	実績数が目標値の90%以上				単 位	%
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
90		37	目標	90	90	90	90	
			実績	92				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		90	90	90	90	90	90	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
目標とする延べ参加人数と実際参加した延べ人数の割合を把握する。目標を90%以上とする。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	2,601							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 ほぼ横ばい				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
地域に根差した私立保育園が実施する事業を区が推進させることで、地域社会との交流が進むとともに、生きがいを持った生活が送れる。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	成果指標のみ満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
事業に参加することにより、世代間交流が図られ、孤独感解消に繋がり目標値を満たすことができる。		4	4	4	4
3 効率性・経済性		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
保育園により、受入れ規模に差があるため、効率的に運営できるよう検討する余地がある。					
中間・最終年度の講評	閉じこもりや孤立・孤独死防止策の一つとして、本事業による孤独感の解消、地域との交流促進及び世代間交流は欠かせないものである。				
今後の方向性	短期的には現状を的確に把握する取組を進め、今後の保育施策や人口動態を踏まえた中長期計画を立てる。				

平成29年度 補助金評価シート

補助金 名称	ふれあい給食事業助成						主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区ふれあい給食事業助成交付金要綱						高齢者福祉課支援係	
事業概要	平成2年度から墨田区ふれあい給食事業助成交付金要綱に基づき実施。 平成14年度に年齢要件を、平成18年度には実施回数を緩和し、事業の充実を図ってきた。現在私立保育園6園に対して経費の一部を助成している。 【現在の助成内訳】ふれあい給食実施：食材料費200円/食、事務費3,500円/回、 生きがい教室：運営費8,000円/回						03-5608-6168	
							事業の終期	
							平成37年	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	地域に根差した私立保育園が実施する事業を区が推進させることで、地域社会との交流が進むとともに、生きがいを持った生活が送れる。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	参加延べ人数				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		4,007	37	目標	3,964	3,829	3,886	3,944
				実績	3,643			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	3,999	4,043	4,064	4,060	4,043	4,007
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	参加延べ人数の把握により、高齢者の地域社会との交流が図られた事が確認できる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	実績数が目標値の90%以上				単位	%
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		90	37	目標	90	90	90	90
				実績	92			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	90	90	90	90	90	90
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
目標とする延べ参加人数と実際参加した延べ人数の割合を把握する。目標を90%以上とする。								
財政面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	2,601							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 ほぼ横ばい				
施策への 関連性	保育園児との世代間交流を通して、高齢者の孤独感が解消され、地域社会との交流が進むとともに、生きがいを持った生活が送れる。							

1 必要性・妥当性			4	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している	
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	していない	
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する	
区の施策目標の実現に寄与しているか	している			
判断理由				
実施している園が遠いなどの理由で参加できない区民について、公平性を担保する必要がある。				
2 有効性・適格性			3	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されていない	
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している	
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	ない	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある	
補助目的が既に達成されていないか	されている	目標及び見込まれる効果が明確か	不明確	
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定のための具体的な目標・指標が明確か	明確	
判断理由				
保育園により、受入れ規模に差があるため、負担の公平性の確保が難しい。				
3 効率性・経済性			5	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある	
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし	
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である			
判断理由				
保育園内で高齢者が交流できる機会はほかにない。				
【評価結果】				
改善・見直し				
中間・最終年度の講評	各園の規模等により、効果的な実施が難しくなっているため、現状に合った内容に変えていくことも視野に入れ、事業を継続する。			
今後の方向性	実施規模に見合った補助になるよう検討が必要である。			

平成29年度 事務事業評価シート

施策	431	元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する	部内優先順位					
事務事業	すこやか長寿夫婦表彰経費					14		
事業概要	長年人生をともに過ごされたご夫婦へのお祝として、結婚50年以上のご夫婦に記念品を贈呈する。					主管課・係 (担当)		
						高齢者福祉課支援係 03-5608-6168		
施策への関連性	長年人生をともに過ごし、金婚を迎えた夫婦を讃え、表彰することが高齢者の励みに繋がる。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の「すこやか長寿夫婦表彰事業についてどのようにお考えですか」の質問に対し、「現状のまま実施した方がよい」と回答した方が31.3%おり、婚姻50年という個人的なことではあるが、一定の区民ニーズがあると言える。							
	代替可能性の状況 (区が実施する必要性等)							
	記念品の購入費及び配送料の全額を区が負担するため、民間業者等が実施することは難しい。							
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指標	チラシ配布数				単位	枚
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		190	37	目標	80	110	120	130
				実績	100			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	140	150	160	170	180	190
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内出張所にチラシを設置、イベント時にチラシを配布することで事業の周知を図る。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	表彰件数				単位	件
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
130		37	目標	130	130	150	130	
			実績	130				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		130	150	130	130	150	130	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
金婚を表彰することが高齢者の励みに繋がるため。								
財政面 (決算額) (単位: 千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	667							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 3年に1度、高齢者福祉サービスのしおり「たんぼぼ」が更新され、これに伴い申請件数が増加する傾向がある。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果から、一定の区民ニーズがあると言える。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
安定した申請件数があり、効果的に実施されている。		3	3	3	3
3 効率性・経済性		効果測定及び改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	類似事業はあるが統合等は望ましくない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定				
判断理由					
表彰事業のため、受益者負担はなじまない。					
中間・最終年度の講評	高齢者の励みとなる表彰制度であり、区民から感謝の言葉も多い。一定の区民ニーズがあり、安定した表彰件数も確認できるが、あり方・内容等を検討する必要がある。				
今後の方向性	個人的な祝事を対象とすべきか等、引き続き検討していく。				